

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																			
YIC京都ペット総合専門学校	平成25年3月25日	村田 忠男	〒 600-8236 (住所) 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27番地 (電話) 075-371-4044																																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																			
学校法人YIC学院	平成19年1月22日	井本 浩二	〒 600-8236 (住所) 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27番地 (電話) 075-371-4044																																			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																		
商業実務	商業実務専門課程	ペット総合科	平成26年 文部科学省告示第6号	-																																		
学科の目的	<p>良識ある社会人として必要な資質を持ち、地域社会の発展に貢献できる心豊かなペット業界のスペシャリストとして活躍できる人財を育成する(教育理念)。</p> <p>具体的には</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人と動物の共生社会の実現のために、正しい知識と高い倫理観を持った人財。</li> <li>2. 即戦力だけでなく、変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため、就職後も技術を研鑽し知識を蓄え、職業人としての使命感と豊かな人間性を備えた人財。</li> <li>3. 他業界・他職種とも協調でき、視野の広い大きな心を持ちうる人財。</li> <li>4. 利他の精神で働くことに社会的意義を感じ、将来ペット業界の指導的立場やリーダーとなりうる人財。</li> <li>5. ジャパンケネルクラブ公認トリマーライセンス、ジャパンケネルクラブ公認ハンドラーライセンス、ジャパンケネルクラブ愛犬飼育管理士、全国動物専門学校協会サロントリマーライセンス、愛玩動物飼養管理士等、将来の業務に就くために必要な資格の取得。</li> <li>6. 動物医療に近い部分の該博な知識を有し、業務を通して動物の健康状態のチェック及び異常が発見できる。</li> </ol>																																					
認定年月日	平成27年2月25日																																					
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																																
2年	昼間	67	0	76	0	0																																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																	
160人	165人	1人	6人	12人	18人																																	
学期制度	<p>■前期: 4月1日 ~ 9月30日</p> <p>■後期: 10月1日 ~ 3月31日</p>		成績評価	<p>■成績表: 有</p> <p>■成績評価の基準・方法</p> <p>評価の基準: 成績:秀(100-90) 優(89-80) 良(79-70) 可(69-60) 不可(0-59)</p> <p>評価の方法: ペーパーテスト及び実技、レポート等</p>																																		
長期休み	<p>■学年始: 4月 1日 ~ 4月6日</p> <p>■夏季: 7月24日 ~ 8月31日</p> <p>■冬季: 12月23日 ~ 1月10日</p> <p>■学年末: 3月10日 ~ 3月31日</p>		卒業・進級条件	<p>卒業要件: 必修科目1, 200時間(40単位)、選択必修科目720時間(24単位)以上、及び選択科目60時間(2単位)を合わせて、計1, 980時間(66単位)以上の履修。学費及び教材費等の完納</p> <p>進級要件: 80%以上の出席 および 期末試験 60点以上を基本とするが、科目により実技試験、あるいはレポートに換える場合もある。学費及び教材費等の完納</p>																																		
学修支援等	<p>■クラス担任制: 有</p> <p>■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者への連絡を密にし、本人との面談や場合によっては保護者を含めた面談を行い、状況把握と指導を行う。都度指導記録を残す。</p>		課外活動	<p>■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学園祭実行委員、京専各体育大会 等への参加(バレーボール、卓球等)ボランティア活動(地域清掃、献血、留学生交流)、部活動、同好会活動、オープンキャンパスボランティアスタッフ</p> <p>■サークル活動: 有</p>																																		
就職等の状況※2	<p>■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) ペットショップ、美容サロン、動物病院</p> <p>■就職指導内容 総合支援課の職員をはじめ教職員の多くがキャリアカウンセラーの資格を有しており、教員と総合支援課の専任スタッフが密に連携しながら、きめこまやかにサポートするなど、就職指導に万全の体制を整えています。</p>		主な学修成果(資格・検定等)※3	<p>■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JKC公認トリマーC級</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>JKC公認ハンドラーC級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士2級</td> <td>②</td> <td>81人</td> <td>73人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士1級</td> <td>③</td> <td>26人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>AAVサロントリマー検定1級</td> <td>③</td> <td>50人</td> <td>49人</td> </tr> <tr> <td>AAVサロントリマー検定3級</td> <td>③</td> <td>30人</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>サービス接遇実務検定試験3級</td> <td>③</td> <td>80人</td> <td>72人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	JKC公認トリマーC級	③	22人	22人	JKC公認ハンドラーC級	③	9人	9人	愛玩動物飼養管理士2級	②	81人	73人	愛玩動物飼養管理士1級	③	26人	20人	AAVサロントリマー検定1級	③	50人	49人	AAVサロントリマー検定3級	③	30人	26人	サービス接遇実務検定試験3級	③	80人	72人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																			
JKC公認トリマーC級	③	22人	22人																																			
JKC公認ハンドラーC級	③	9人	9人																																			
愛玩動物飼養管理士2級	②	81人	73人																																			
愛玩動物飼養管理士1級	③	26人	20人																																			
AAVサロントリマー検定1級	③	50人	49人																																			
AAVサロントリマー検定3級	③	30人	26人																																			
サービス接遇実務検定試験3級	③	80人	72人																																			
	<p>■卒業生数 76 人</p> <p>■就職希望者数 70 人</p> <p>■就職者数 66 人</p> <p>■就職率 94.3 %</p> <p>■卒業生に占める就職者の割合 : 86.8 %</p> <p>■その他 ・進学者数: 1人</p> <p>・進路未定者数: 3人</p> <p>(令和 5 年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)</p>																																					

<p>中途退学の現状</p>	<p> <b>■中途退学者</b> 9名 <b>■中退率</b> 5%            令和4年4月1日時点において、在学者165名（令和4年4月1日入学者を含む）            令和5年3月31日時点において、在学者155名（令和5年3月31日卒業者を含む）  <b>■中途退学の主な理由</b>            学生生活不適応、学習意欲低下、進路変更就職の為、病気が、経済的困窮等良他  <b>■中退防止・中退者支援のための取組</b>            入学前学習教材および実力テストによる基礎学力確認および基礎学力向上支援の取り組み。クラス担任制を設けて学生生活を支援するとともに適宜面談の実施。授業アンケートやhyper-QUアンケートの実施・分析による学生面談の実施。スクールカウンセラーの設置およびカウンセリングによる支援および個別相談窓口の設置等。         </p>
<p>経済的支援制度</p>	<p> <b>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：</b> 有            ※有の場合、制度内容を記入            ・特待奨学金制度（一般常識、面接、書類審査によりSABランクの特待生を選抜）初年度学費よりS：学費20万円免除、A：10万円免除、B：5万円免除            ・ファミリーサポート制度（YICグループ校の在学者または卒業生に親、子、兄弟姉妹がいる者に対し、初年度学費より5万円免除）            ・ひとり暮らしサポート制度（通学困難者で下宿をせざるを得ない者に対し、毎月5千円を支給）            ・社会人キャリア応援制度（大学・短大・専門学校卒業生・卒業見込生・社会人（3年以上就業）であり、本校で更に専門技術、知識を身に付けようとする向学心のある者に対し、初年度学費より10万円を免除）  <b>■専門実践教育訓練給付：</b> 給付対象            ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載            前年度実績：1名         </p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p> <b>■民間の評価機関等から第三者評価：</b> 無            ※有の場合、例えば以下について任意記載            評価団体： 受審年月： 評価結果を掲載したホームページURL         </p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p><a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a></p>

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・教育目的に沿った教育課程編成、教育水準とする。具体的には、業界・社会の要請を的確に把握し、職業に必要な実践的・専門的な能力を育成するため、企業と密接な連絡をとりつつ、本校が設定した卒業生の技術レベル、および人間力の醸成に注力する。
- ・講義・授業の計画(シラバス)は、本校の教育の基幹をなすものであり、本校の教育理念に沿って教育を行い地域社会、学生、保護者に対して、本校が社会に送り出す学生の質を規定(保障)するものであると位置づける。
- ・入学時の基礎学力不足、および学力差の中で効率的・効果的な授業を行うため、必要に応じ、上記科目とは別に、入学前授業、基礎学力対策特別授業を行う。
- ・人間力、とくにコミュニケーション力、接客技術、その他職業人として必要な働く意欲を高めるための学習は、課外のキャリア特別授業や職業人を招いての講話だけでなくあらゆる行事を含めた学校生活の中で醸成するものである。
- ・界外のスペシャリストによる職業人講話、技術指導、ボランティア活動、インターンシップ、就業体験その他地域社会・業界との関連により学ぶことの意義と学習意欲の向上につなげる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ・機関企業等からの提言・意見を反映し、職業実践的な教育を行うための、教育課程編成における諮問機関である。
- ・学校運営から独立した機関であり、理事会直結の諮問機関とする。
- ・臨時委員会は、各種検定資格の内容変更・新技術の導入・業界の新しい動向により教育課程編成を変更・追加が必要になった場合などに委員の要請により開催する。必要に応じ当該関係者の意見を聴取することもある。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
石田 龍一	公益社団法人滋賀県獣医師会 会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	①
森 尚志	公益社団法人京都市獣医師会 会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	①
西躰 恭子	一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿プロックトリマー委員会 委員長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
植田 博文	株式会社ひごペットフレンドリー 人事総務部 係長代理	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
塚本 清司	株式会社Lovely 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日	②
村田 忠男	YIC京都ペット総合専門学校 校長	—	—
飛田 隆	YIC京都ペット総合専門学校 副校長	—	—
五郎畑 通与	YIC京都ペット総合専門学校 教務課長	—	—
澤 智春	YIC京都ペット総合専門学校 総合支援課長	—	—
山根 大助	YIC京都ペット総合専門学校 管理部長	—	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (5月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年5月20日 15:00～17:00

第2回 令和4年11月11日 開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

今後の検討課題

1. ブリーダーでは犬種が定まっているケースが多いため、一般家庭飼養されているプードル犬や人気犬種以外について、現在もモデル犬を継続募集中ではあるが、なかなか集まっていない。本校で確保できていない人気犬種について、外部講師に依頼し、トリミング実習のデモンストレーション授業を後期に実施することを考える。
2. 接客のコミュニケーション力向上のため、ロールプレイングを導入して授業展開を行う。

新しい資格についての見解としては、資料に書いてあるとおり、今現在、アドバイザーコースに取り入れている小動物販売士、こちらの資格試験がの廃止となり、次年度からは実施されない。結果、アドバイザーコースのコースの学生が取得する資格が減少してしまうということもあり、新しく導入したいという理由の1つで、入学希望者の高校生の声として、最近は動物保護活動であったり、動物介助についてであったり、動物セラピー、動物に関するリハビリテーションなどに関心を持っている学生が多いという声もよく聞く。きますで、あと、動物取扱業責任者こちらの登録が一登録について法的に厳しくなってくるかなと思っておりますので、何か資格を取らせるといのであれば、こちらに適合する 資格を取らせたりということもあって、導入を検討しております。

あと、トレーナーコースの資格として、ハンドリングというジャパンケネルクラブの方の資格を取っているが、トレーナーコースとしての訓練士資格について新規導入を考えている。協会の方で家庭研訓練士という資格があり検討中。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ペット分野の職業に必要な実践的な能力は、業界の最新技術、現場の技術者による実践的技術、業界の動向等、企業等との密接な連携が必須であり、職業教育の質が確保できるとして、適宜企業側から最新の技術教育に対する学校への講師派遣、あるいは企業における技術教育等を行う。連携の効果をより確かなものとするため、本校と企業、各協会が相互に基本方針を確認し、連携の協定書を結ぶ。具体的な実習・演習計画、授業方法、学修成果の評価、講師(担当者)等については連携の協定書締結時に確認する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学内の授業・実習などで修得した知識や技術等を企業及び各種団体などの各施設や現場で利活用して実践力を養成しつつ、高い評価が得られる職業社会人として必要なスキルや多様な能力が求められる実態を学生本人が把握をし、そのニーズを見極め自身の醸造と今後の学習において自己課題を設定する機会としている。

実習・演習等においては、各科目のシラバスにより授業を進め、授業終了後には実施した内容をクラウド上の授業報告書に記入し、他の教員との間で情報共有を行う。

各定期試験において、指導者より出題される課題(ペーパー試験、実技試験等)を実施し評価していただく。この評価を基に、単位認定・卒業判定会議にて最終単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
水生生物 I	アクアリウムの中でも一般的な鑑賞魚や水草を学び、熱帯魚や水草にとつての環境(光・酸素・二酸化炭素など)を覚える。癒しやインテリアとして需要が多くなっているアクアリウムの基本を覚える。	FISH・HOUSE 代表 細川 敏史
訓練 I	家庭犬を深く知ることで、しつけとは何か、飼い主ができる方法や飼い主が困る犬の問題行動の予防や解決方法を覚える。モデル犬と一緒に犬を飼うために必要なスキルと最低限のしつけ方法を学び、覚える。	アルカドッグトレーニング 主宰 菊川 智子
家庭犬訓練 I	犬とのふれ合いから、基本となる訓練方法を覚える。 犬のコントロール方法を覚える。	BANFFドッグスクール 代表 小泉 秀明
訓練 II	ドッグ・スポーツを通して、犬とのコミュニケーション力向上を行う。社会で自立するための技術・知識の向上と社会貢献ができる。	BANFFドッグスクール 代表 小泉 秀明
ハンドリング	ハンドリングの方法と技術を覚える。 犬種のコントロール方法を理解し、犬をより深く愛せるハンドラーになる。	ORUHA TECKEL 代表 山中 美佐穂

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 ・学生・保護者・地域社会(企業)に対して本校の卒業生の質を担保するためには、教職員の教育力の向上が必須である。「学校法人YIC院教職員研修規程研修等」に基づき、研修等には①担当分野の実務、②インストラクショナルスキル、③学生指導・就職指導、④学校運営 についての研修を計画的に行う。教育研修は、学校関係者すべてに関わるものであり、自己啓発を含め積極的に支援する。年度研修は研修計画に沿って行い、スポット研修は随時行う。	
(2) 研修等の実績	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 「JKC愛犬飼育管理士講習会」	連携企業等: 一般社団法人ジャパンケネルクラブ
期間: 令和4年8月30日(火)	対象: 教員
内容 「動物の愛護及び管理に関する法律」の理念に基づいた「JKC愛犬飼育管理士」資格取得の講習会	
研修名: 「JKC近畿ブロックトリマー義務研修会」	連携企業等: JKCN近畿ブロックトリマー協議会
期間: 令和4年10月5日(水)	対象: 教員
内容 犬種別(テリア系)ショークリップについて	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 「かかわりづくりワークショップ」	連携企業等: 奈良教育大学教授 粕谷貴志先生
期間: 令和4年8月17日(水)	対象: 教員
内容 入学直後の学生間の人間関係の築き方、人との関わり方について	
(3) 研修等の計画	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 「JKC近畿ブロックトリマー義務研修会」	連携企業等: JKCN近畿ブロックトリマー協議会
期間: 令和5年8月17日(木)	対象: 教員
内容 フードについて	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 「学生とのコミュニケーション向上スキル」	連携企業等: キャリアコンサルタント 産業カウンセラー 村上恵子先生
期間: 令和5年8月22日(火)	対象: 教員
内容 Z世代の特徴とコミュニケーションの取り方	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんのための教育機関」の実現に注力する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1 教育理念・教育目標
(2) 学校運営	2 学校運営、3 教育活動、9 財務
(3) 教育活動	3 教育活動、8 教育の内部質保証システム
(4) 学修成果	4 学習成果、8 教育の内部質保証システム
(5) 学生支援	5 学生支援
(6) 教育環境	6 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	7 学生の受入れ募集
(8) 財務	9 財務
(9) 法令等の遵守	2 学校運営、8 教育の内部質保証システム、9 財務
(10) 社会貢献・地域貢献	10 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	11 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

1. 教育内容の改善を図るため、教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているか  
→懇談会、研修の機会を設け、スキルアップを含めて対話の機会を設ける。
2. 学習参加の前提としているスキルや要件などに不足がないかを確認するためのアンケートやヒアリングを行っているか  
→入学前研修の際に学力テストを実施する等、現在の入学前学習も含めて運用を検討する。
3. 授業改善全般に関して  
→授業改善後の改善状況を報告し、改善状況の進捗を確認する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
石田 龍一	公益社団法人滋賀県獣医師会 会長	令和5年4月1日～令和7年 3月31日	業界団体
森 尚志	公益社団法人京都市獣医師会 会長	令和5年4月1日～令和7年 3月31日	業界団体
西躰 恭子	一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロックトリマー委員会 委員長	令和5年4月1日～令和7年 3月31日	業界団体
植田 博文	株式会社ひごペットフレンドリー 人事総務部 係長 代理	令和5年4月1日～令和7年 3月31日	業界企業
塚本 清司	株式会社Lovely 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年 3月31日	業界企業
丸山 帆夏	ダクタリ動物病院 京都医療センター	令和5年4月1日～令和7年 3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 令和5年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容（提供する情報の項目例）全てについて、ホームページ上にて情報提供する。教育活動、その他学校運営の状況、これらの結果は、企業、在学生、卒業生、保護者等関係者にホームページなどに公開・提供していることを、学校便り、オープンキャンパス、案内資料、企業説明会などで広く周知し、理解を得る。企業との連携による職業実践教育を行うためには、企業に対して本校の理念、教育活動の理解が前提であり、具体的な連携を計画する際の基本資料として提示・説明することで企業の協力が得られるものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育目標
(2) 各学科等の教育	学科紹介、学科別教育課程、各学科科目別シラバス、卒業要件、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、取得可能資格一覧、就職実績
(3) 教職員	教員数、学校組織一覧、
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、教育課程編成委員会
(5) 様々な教育活動・教育環境	企業連携授業
(6) 学生の生活支援	ひとり暮らしサポート制度、奨学金窓口の設置、個別相談窓口設置
(7) 学生納付金・修学支援	修学支援新制度、財務報告
(8) 学校の財務	財務報告
(9) 学校評価	自己点検・評価結果の公表、学校関係者評価委員会
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )  
 URL: <https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/disclosure/>  
 公表時期: 令和5年7月31日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペット総合科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		犬学・猫学	犬と猫の歴史・生態・習性や人との関係を覚える。 犬・猫本来の能力について覚える。	1・前	30	1	○			○	○			
2	○		犬種・猫種学 I	犬・猫種の各グループ別、原産国、歴史、サイズなどを覚える。(JKC登録数上位、人気犬種を対象) 犬種・猫種による習性や特徴を覚える。	1・前	30	1	○			○		○		
3	○		小動物概論 I	犬・猫以外での動物の生態を学ぶことにより、エキゾチックアニマルと呼ばれる分野の知識を覚える。 幅広い動物の生態を学ぶことで、動物のスペシャリストになる。	1・後	30	1	○			○		○		
4	○		水生生物 I	アクアリウムの中でも一般的な鑑賞魚や水草を学び、熱帯魚や水草にとっての環境(光・酸素・二酸化炭素など)を覚える。 癒しやインテリアとして需要が多くなっているアクアリウムの基本を覚える。	1・前	30	1	○		△	○		○	○	
5	○		解剖学	犬・猫を中心とした動物の体の仕組みを勉強し、肉食動物と草食動物、生活環境に適した生態毎の違いを覚える。 犬・猫を中心とした動物の体の構造、骨格筋系、呼吸器系・消化器系・循環器系・内分泌系・神経及び感覚器系の機能を理解し、肉食動物と草食動物、生活環境に適した生体毎の違いを覚える。 動物の体の仕組みを学ぶことで、飼育方法や病気などの他の分野の基礎を確実に答える。	1・後	30	1	○			○		○		
6	○		公衆衛生	動物とよりよい関係を築く為に必要な、感染症や消毒方法などの知識を覚える。 衛生上の危害や発生を防止する分野の基礎を覚える。	1・後	30	1	○			○		○		
7	○		動物関連法規	動物業界、動物医療の関連法規を覚える。 仕事をする上での法律を覚える。	1・前	30	1	○			○		○		
8	○		グルーミング基礎学	グルーミングの必要性と目的、効果。グルーミングを行う上での犬体の構造、獣医学、衛生と消毒、各種専門用語を覚える。 ビジネスとして仕事をしていくうえで、グルーマーとしてお客様に満足していただける技術や心構えを身につける。 また、お客さまから信頼されるトリマーの知識を覚える。	1・通	60	2	○			○		○		

9	○		犬種別トリミング学Ⅰ	犬種別のグルーミング方法。トリミングの基礎であるベーシックを学習。短毛犬種、中型犬種、大型犬種など、犬種別のグルーミングを覚える。 ブラッシング・爪切り・耳掃除など基本的知識を身につけ、多くの犬種のベーシックができるようになる。	1・前	30	1	○		○	○							
10	○		健康管理学	犬・猫の病気について、各コース共通に必要な知識を覚える。 犬・猫の病気について学び知識を身につける。	2・後	30	1	○		○							○	
11	○		基礎看護学	動物関係の仕事に就く上で犬・猫の必要最低限の看護知識を覚える。 必要最低限の看護知識・応急処置法を身につける。	1・後	30	1	○		○	○							
12	○		愛玩動物飼養管理學	愛玩動物飼養管理士試験【2級】に関連する内容を覚える。 愛玩動物飼養管理士2級の合格レベル、知識を覚える。	1・通	60	2	○		○							○	
13	○		動物行動学	犬・猫種による行動の異なりから、成長段階にみられる行動を覚える。 それぞれの対応を学び、固体における基本的な行動の意義・機序を理解し飼い主指導に活かす。	1・後	30	1	○		○							○	
14	○		小動物飼育学Ⅰ	生態や習性の違う動物たちを飼育する時に気を付けないといけないことを学ぶ。 また、その動物についてを理解した上で、飼育動物の生活の質（QOL）の向上を考えることができるようになる。 一般的に飼育されている小動物たちの、適正とされる飼育ができるようになる。 主体性を持って、自らがその動物のことを考え、飼育環境改善を行うことができる。	1・前	30	1	○		○	○							
15		○	愛犬飼育管理學	犬種についての基本的な知識を覚える。	2・後	30	1	○		○							○	
16	○		家庭犬訓練Ⅰ	犬とのふれ合いから、基本となる訓練方法を覚える。 犬のコントロール方法を覚える。	1・前	30	1			○	○						○	○
17	○		パピーケアⅠ	生後1ヵ月から1歳になるまでの基礎知識である しつけ・栄養・健康面についてを覚える。飼い主との家族関係を踏まえ、アドバイスができる。	2・前	30	1	○		○							○	○
18	○		グルーミングⅠ	基本的なグルーミング方法を覚え、技術を身に付ける。トレーナー&アドバイザーコースは、2年次に受験予定であるAAVサリントリマー3級資格取得試験を意識した各犬種のグルーミングができる。	1・通	180	6			○	○						○	○
19	○		実務研修Ⅰ	実際のペットショップ・動物病院に勤務を体験（研修）し、これを通して、専門知識を実社会においてどのように活かしていくべきか、今後の自分にとって何が必要かを考える能力を身に付けるとともに就職に整	2・前	30	1			○	○						○	○

20	○		キャリアデザインⅠ	就職活動に実践で活用できる内容を覚える。	1・通	60	2	○			○	○							
21	○		キャリアデザインⅡ	就職活動に実践で活用できる内容の学習と習得。	2・通	60	2	○			○	○							
22	○		ビジネスマナー	接客対応の基礎 『心づかい』『言葉づかい』などの実務知識を覚える。 基本的な接客マナーを身に付け、多方面からのスキルを覚える。	1・前	30	1	○			○						○		
23	○		ビジネス電話	第1～3回授業については、サービス接客検定に向けての継続授業。 接客対応の基礎 『電話対応』の実務知識を覚える。 基本的な電話対応マナーを身に付け、多方面からのスキルを覚える。	1・後	30	1	○	△			○					○		
24	○		基本IT技術Ⅰ	コンピュータを利用した事務作業に必要な文書の作成やマナーについて学習。 必要な技術を効率良く行えるよう繰り返し練習する。 必要に応じたコンピュータの利用技術の取得。	2・前	60	2				○	○						○	
25	○		基本IT技術Ⅱ	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方・プレゼンテーションの作成 必要に応じたコンピュータの利用技術の取得。	2・後	60	2				○	○						○	
26	○		総合学習Ⅰ	普段、学内では体験できない事を、外部の施設・イベントに参加をする。 外部の施設・イベントに参加をし、専門職者としての技術と人間力を高める。	1・通	30	1				○	○	○						
27	○		総合学習Ⅱ	普段、学内では体験できない事を、外部の施設・イベントに参加をする。 外部の施設・イベントに参加をし、専門職者としての技術と人間力を高める。	2・通	30	1				○	○	○						
28	○	○	美容Ⅰ	各犬種の基本的なグルーミング・ベーシック・カッティング（カット技術・整毛技術）方法を覚え、技術方法を身に付ける。	1・後	90	3				○	○	○	○					
29	○	○	美容Ⅱ	各現場で通用するトリミング技術方法を覚える。新たな犬種についての美容に関する技術を覚え、1年生から学んだ技術を後退させない。時間短縮をより意識する。クリッピング時間の短縮。JKC・トリマーC級ライセンス、AAV・サロントリマー1級資格取得試験を意識した各犬種のトリミングができる。	2・通	540	18					○	○	○	○				
30	○	○	犬種別トリミング学Ⅱ	専門的な犬種別トリミング方法、クリップスタイルを覚える。 より深く犬種を知り、犬種にあった専門的なトリミング方法の知識を覚える。	1・後	30	1	○				○						○	
31	○	○	トリマー演習	JKC・トリマーC級ライセンス取得、AAV・サロントリマー1級ライセンス取得のための知識（筆記試験対策）、その他デザインカットの知識を身につける。	2・通	60	2	○				○						○	



43	○	グルーミングⅢ	各現場で通用するグルーミング技術を覚える。 新たな犬種についての美容に関する技術を覚え、1年生次で学んだ技術を後退させない。	2・通	180	6				○	○			○	○	
44	○	小動物概論Ⅱ	動物全般について（哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・無脊椎動物） 小動物全般について広範囲の専門的な知識を覚える	2・通	120	4	○				○				○	
45	○	水生生物Ⅱ	アクアリウムの実践に向けての知識を覚える 水草の取り扱いと熱帯魚の性質を知り、アクアリウムの組み立てからレイアウトの完成をさせる計画を立てる。	1・後	60	2	△			○	○				○	○
46	○	水生生物Ⅲ	アクアリウムの管理・実践 水草の取り扱いと熱帯魚の性質を知り、アクアリウムの組み立てからレイアウトの完成をさせる。	2・通	120	4	△			○	○				○	○
47	○	愛玩動物飼養管理學特論	愛玩動物飼養管理士試験【1級】に関連する内容を覚える。 愛玩動物飼養管理士1級の合格レベル、知識を覚える。	1・前	30	1	○				○					○
48	○	小動物看護學	動物看護師から、ペットアドバイザーに知っておいてほしい小動物の疾病、それを防ぐための飼育方法等について学ぶ。 ペットショップで取り扱う代表的な小動物の生態・習性、飼養・保定方法、代表的な疾病を各小動物ごとに説明できる。 ペットショップでお客様に対して、各動物の起こりやすい病気を踏まえて紹介することができる。	2・通	30	1	○				○					○
49	○	小動物飼育學Ⅱ	ペットショップで取り扱われている小型動物・中型動物（哺乳類・鳥類・両生類・爬虫類等）やふれあい施設で飼養されている動物、日本の野生動物について、より知識を深め、アドバイザーとしての領域を広める。	2・通	30	1	△			○	○					○
50	○	犬種・猫種學Ⅱ	各グループの犬種の専門的な知識を覚える。 各犬種・猫種の習性や特徴を細かくスタンダードを分析し、覚える。	1・後	30	1	○				○					○
51	○	ペットマッサージ	アニマルベーシック／メンテナンスマッサージコース（学生用）の修了を目指した授業	1・後	60	2	○			△	○					○
52	○	ペット経営學	ドッグ（ペット）サロン、生体販売店、ペット介護施設、しつけ教室等の店舗運営に直結する内容を覚え、将来店舗運営時に活用。最新ペット業界の動きを常にチェックする。	1・後	60	2	○				○					○

53			○	フードアドバイザー	フードアドバイザーとしての最低限必要な知識である栄養学、ペットフード、サプリメント類についてを覚える。	1・後	60	2	○			○			○	
54			○	ホリスティック	自然治癒力を高め、心と身体全体をとらえ、健康を管理する必要性と方法を覚える。東洋医学を踏まえた指圧、各種マッサージの実技を身につける。副作用の強い治療や薬剤の耐性、高齢犬に対する麻酔などのリスクが高く、より優しい治療を求め飼主が多くなった中、マッサージなどの代替治療（ホリスティック）を学ぶことにより健康に対する知識を身につける。	1・後	60	2	○			○			○	
55			○	損害保険学	ペット保険及び損害保険募集人に関連する内容を覚える。 アニコム損害保険の合格レベル、知識を覚える。	1・後	60	2	○			○			○	○
56			○	アニマルヘルパー	独立開業を目指す場合やトリマー、ドッグトレーナー、ペットショップ、ペットホテルなどの職業に就いても必要となる訪問サービスを学び身につける。	1・前	60	2	○			○			○	
57			○	実務研修Ⅱ	実際のペットショップ・動物病院に勤務を体験（研修）し、これを通して、専門知識を実社会においてどのように活かしていくべきか、今後の自分にとって何が必要かを考える能力を身に付ける。（1）就職を考えさせ早期就職内定へ繋げる。 （2）ペット業界での自分の適性や仕事の内容について自己分析する。 （3）ペット業界への関心・就職への意欲を高め、日々の学校生活に対する意欲を高める。	1・後	60	2			○		○		○	○
58			○	卒業研究	プレゼンテーション能力の養成・向上を目指して、基本的な知識を修得し、さまざまな場面で自分の考えをしっかりと相手に伝える積極的な意思表示ができる。 プレゼンテーションを行なうために必要な基本的な事柄を覚え、プレゼンテーションの意義・目的、内容、進め方、ツールの活用など、基礎を学ぶと同時に話し方などの口頭表現・身体表現ができる。	2・後	30	1			○		○		○	
59			○	サービス接遇特論	接客対応の基礎 『心づかい』『言葉づかい』などの専門的な実務知識を覚える。 専門的な接遇マナーを身に付け、多方面からのスキルを覚える。	1・後	60	2	○			○			○	

60			○	ビジネス文章力	美しい字を書く。ビジネス文書に関わる知識・技術を実際に活用できる。手紙・はがきを書くルールやマナーを活用する。社会人として必要なビジネス文書のマナーとルールを活用して社会生活を送る。	1・後	60	2	○			○				○
61			○	論理的思考力	日常生活に関する題材を取り上げ、論理的な思考力をつけ、数学的な考察を行える。小学校の算数程度のみで楽しみながらできる。一般にビジネス、つまり仕事におけるコミュニケーション能力とは論理的な表現力を指し、情報の収集、整理・統合、思考そして発信に至るまで論理的であることが求められる能力の1つであるコミュニケーション能力を数学的思考を通して身につける。	12・後	60	2	○			○				○
62			○	ビジネス英語	ペットショップ（サロン）等での対応について、様々な場面での英会話を覚え、授業は簡単な会話を中心としペット分野に必要な表現・用語を併せて覚える。外国人を迎えた時だけでなく、多方面で国際的なコミュニケーションが必要になっているため、トリマーやトレーナー、アドバイザー等の活躍する場所も今後海外のペットショップで働いたり、留学したりと多くのステージが考えられる。グローバル時代に羽ばたくために、国際語としての英語を自分のものにする。	12・後	60	2	○	△		○				○
63			○	イベントプロデュースⅠ	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力をつける。イベントを企画する段階から時間軸のプロセスを経て、「最終的な目的達成」のために最高のパフォーマンスを発揮できるよう、イベントのノウハウや、プランニング方法等を実際のイベント運営を通して、具体的に学び、これからのイベントの方向性を探っていく。	1・前	30	1				○	○			○
64			○	イベントプロデュースⅡ	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力をつける。イベントを企画する段階から時間軸のプロセスを経て、「最終的な目的達成」のために最高のパフォーマンスを発揮できるよう、イベントのノウハウや、プランニング方法等を実際のイベント運営を通して、具体的に学び、これからのイベントの方向性を探っていく。	2・後	30	1				○	○			○

65			○ 企業研究	就職を希望するペットショップ・動物病院等の調査法、インターンシップの依頼（電話・依頼文作成）、インターンシップに参加する前提とした目的・心構え・ビジネスマナー等を中心に、事前準備を行なう。インターンシップ終了後は、インターンシップを通じて得た知見や経験を体験報告をレポートにまとめ、インターンシップ報告書が作成できる。（交通費等の費用は原則自己負担） 自分自身の視点から調査・分析出来る能力を身につけ、就職につなげる。自己の職業適性や将来設計について考える機会を得ることにより、高い職業意識の育成を計るとともに、自ら職業選択の明確な基準軸を見つける。	2・後	60	2	○		○	○								
66			○ ボランティア活動	各分野で活動する実践者によるオムニバス方式での講義をとおして、ボランティア活動の価値、意義、役割、実際の活動等について理解を深めた後に、実際にボランティア活動を行う。施設見学や実際のボランティア体験等を行う予定なので、シラバスの変更（施設との調整などにより）が行われることもある。 ・ボランティア活動はもうひとつの信頼を育むコミュニケーションであることを覚える ・ボランティア活動のリスクなどについても学び、専門職として関わることを前提とした学びの視点、実践活動を通じたスキルや知識を覚える ・主体的にボランティアに参加することが	2・後	120	4			○	○	○							
67																			
68																			
合計						66	科目	4,170	(139)	単位	(単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	必修科目1, 200時間(40単位)、選択必修科目720時間(24単位)以上、及び選択科目60時間(2単位)を合わせて、計1,980時間(66単位)以上の履修。 学費及び教材費等の完納	1学年の学期区分	2期
履修方法：	ペーパーテスト、レポート、実技テストによる評価	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。